



「言語能力をはぐくむモデル校」SE 通信

つながり

4月号

本年度、上荘小学校は大阪府の「言語能力をはぐくむモデル校」として、全校体制での研究・実践に取り組んでいます。

国の教育基準である学習指導要領では、言語能力を「国語」という一教科の枠を超えた「すべての学習の基盤となる力」と定義しています。本校が育てる「言語能力」とは、言葉を単なる知識として得るだけではありません。次の3つの力を中心とした「思考の道具」として使いこなし、友だちや教師に自分の思いを伝え、豊かに「つながる」ことができる姿を目指します。

- ・言葉 を正しく使いこなす力（読み・書き・語彙力）
- ・論理的に考える力（情報を整理し、筋道を立てて構築する力）
- ・伝え合い、理解し合う力（自分の考えを話し、相手の意図を汲み取る力）

これらの力を通じて、子どもたちが「自分の考えや思いを、自分らしい言葉で分かりやすく伝える」ことができるよう、日々の学習や学校生活の中で、さまざまな取り組みを展開してまいります。以下に、本校の取り組みを紹介します。



「ここが面白いと思ったんだ！」 1冊の本を一緒に見つめながら、自分の心が動いた瞬間を言葉にする子どもたち。本校が今年度、大阪府のモデル校として取り組んでいる「言語能力の育成」の核は、まさにこの瞬間にあります。

■ 知識から「道具」へ、そして「絆」へ

私たちが育てる言語能力とは、テストのための知識だけではありません。自分のモヤモヤした思いを言葉にして整理する「思考の道具」であり、それを誰かに届けて、友だちや教師と深く「つながる」ための力です。

■ 教室で磨かれる「論理」と「表現」

高学年の教室では、より高度な学びも展開されています。文章の核心となる「キーワード」を逃さずに要約文を組み立て、クラス全体で共有する。黒板に並んだ多様な考えを見比べることで子どもたちは「そんなまとめ方もあるのか！」と刺激を受け、自分の思考をアップデートしていきます。

論理的に考え、共感を持って伝え合う。この「言葉の力」を武器に、子どもたちが未来をたくましく切り拓いていけるよう、これからも全職員で研鑽を積んでまいります。